まあまあまあ　椿台春秋

「まあまあまあー」。ラウンド中にゴルファーが最も多く使う言葉ではなかろうか。身に覚えのある方も少なからずいるはずである▼そんなに上手くいかなくても、満足できるショットが打てなくても。自分を納得させるというか、慰めるというか、ついつい出てくる言葉である。この「まあ」の数が多ければ多いほど、きっとショックが大きいのだろうと想像できる▼中には「まあまあまあまあまあ」と、いったい何回繰り返すのと問いかけたくなるプレーヤーさえいる。便利な言葉ではあるが、あんまり使いたくもない言葉でもある▼同じように、ショートパットを失敗したときによく出てくる言葉が「あー切れた」。自らを振り返っても、よく使っている気がするが、往々にして腕の未熟さで狙ったところに打てないことが多い。決して切れてはいないのである。それでも恥ずかしげもなく「切れた」と叫んでしまう。ラインを知っている同伴プレーヤーからみれば開いた口がふさがらないのだろうが、そこは紳士のスポーツ、決して「切れてないですよ」と指摘することはない。「切れた」もゴルフの言い訳あるあるの一つに挙げられるだろう▼すべてが上手くいくことがないのがゴルフである。ショット、パットの失敗を何度も何度も繰り返すことで、技術を磨き、感性を鋭くしていく。まさに失敗から学び、ミスをいかに抑えるかが問われるのがゴルフ▼それでも、ショットはまっすぐ飛び、アプローチはピンそば、パットは吸い込まれるように入る。そんなことを夢見て、ゴルファーはゴルフ場に足を運ぶ。真面目にゴルフと向き合っていれば、いつの日か「DREAMS COME TRUE」となると信じて。